

第 108 回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 鈴木敦)では、「第 108 回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

【資料 1】 2023 年度 4 月～10 月の輸送概況について p. 1

【資料 2】 2023 年度決算見通しについて p. 2

【資料 3】 利用促進及び地域との連携について p. 3～4

※お問い合わせにつきましては、本日 17:30 まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

2023年4月～10月の輸送概況について

◇ 輸送人員

【単位：人/日】

	2023年度	2022年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	9,743	9,917	△ 174	98%	10,900	△ 1,157	89%
通勤	3,888	3,856	32	101%	4,302	△ 414	90%
通学	5,855	6,061	△ 206	97%	6,599	△ 744	89%
定期外	2,846	2,446	400	116%	3,714	△ 868	77%
合計	12,589	12,364	225	102%	14,614	△ 2,025	86%

(項目ごとに四捨五入のため、合計しても合わない場合がある)

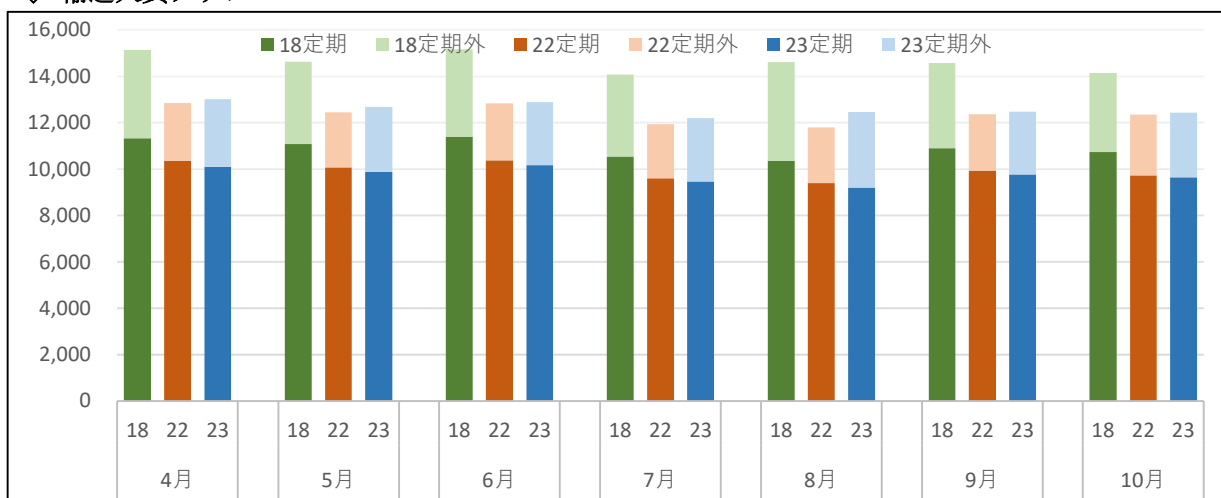
◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2023年度	2022年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	304	308	△ 4	99%	351	△ 47	87%
通勤	154	153	1	101%	178	△ 24	87%
通学	150	154	△ 4	97%	173	△ 23	87%
定期外	305	261	44	117%	385	△ 80	79%
合計	608	569	39	107%	736	△ 128	83%

(券種ごとの統計数値のため、決算数値とは異なる)

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況（輸送人員）

【定期】

コロナ禍での交通手段の変更や沿線の人口減少、少子化等の影響はあるものの、概ね2022年度比と同程度（98%）、2018年度比で約10ポイント減（89%）での推移を維持している。

【定期外】

新型コロナによる行動制限も無くイベント等も多数開催されたことから、人流が増えており、2022年度比で16ポイント増加している（116%）。2018年度比では、依然コロナ禍前までの回復には至っていない（77%）ものの、2022年度同時期の2018年度比（66%）からは11ポイント増加している。

2023年度決算見通し

【概要】
<p>■営業損益 ▲332,772千円（当初計画比：▲33,050千円、前年比：77,367千円）</p> <p>営業収入は、貨物列車の線路使用料収入の減少や、旅行業の取扱商品を沿線地域への着地型商品に特化したこと等による商品売上の減少に伴い、当初計画から112,847千円の減収となる見通し。なお、2022年度決算と比べると、人流の回復や利用促進の取組等により旅客運輸収入が増加（79,242千円）すること等から、225,608千円の増収となるもの。</p> <p>営業損益は、退職者の不補充による人件費の削減や各種経費の見直し等により、営業費が減少（▲79,797千円）するものの、営業収入が上記のとおり大きく減収となることから、当初計画を33,050千円下回り、332,772千円の赤字となる見通し。</p>
<p>■当期損益 167,020千円（当初計画比：2,013千円、前年比：238,027千円）</p> <p>当期損益は、当初計画を2,013千円上回り、167,020千円の黒字となる見通し。</p> <p>なお、2022年度決算（▲71,007千円）に比べ、大幅に収支が改善（238,027千円）する見通しであるが、県・沿線市町による経営安定化対策交付金（300,000千円）や、昨年8月に発生した大雨災害による補助金収入（139,494千円）があることが主な要因であるもの。</p> <p>※ 2018年度以来、5期ぶりの黒字見通し</p>

(単位：千円、税抜)

項目	2023年度 決算見通し A	2023年度 当初計画 B	増減 C (A-B)	摘要	2022年度 決算 D
営業収入	4,164,200	4,277,047	▲ 112,847		3,938,592
旅客運輸収入	1,052,020	1,070,441	▲ 18,421	定期外運賃収入の減	972,778
線路使用料収入	2,897,484	2,952,840	▲ 55,356	貨物列車の輸送実績による減	2,617,490
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	214,696	253,766	▲ 39,070	旅行業の見直しによる商品売上の減	348,324
営業費	4,496,972	4,576,769	▲ 79,797		4,348,731
人件費	1,065,596	1,086,670	▲ 21,074	退職者の不補充による減	1,098,911
業務費	814,332	890,430	▲ 76,098	旅行業の見直しによる商品仕入の減 各種経費の削減による減	820,976
修繕経費	2,069,597	2,048,296	21,301	新紙幣対応に伴う機器改修費用等による増	1,933,048
諸税	162,883	163,862	▲ 979		123,600
減価償却費	384,564	387,511	▲ 2,947		372,196
営業損益	▲ 332,772	▲ 299,722	▲ 33,050		▲ 410,139
営業外収益	333,805	330,152	3,653	経営安定化対策交付金（300,000千円）	432,308
営業外費用	21,680	22,025	▲ 345		15,927
経常損益	▲ 20,647	8,405	▲ 29,052		6,242
特別利益	296,281	284,009	12,272	大雨災害による補助金収入（139,494千円）	412,597
特別損失	96,531	86,155	10,376		466,901
税引前当期損益	179,103	206,259	▲ 27,156		▲ 48,061
法人税等	12,083	41,252	▲ 29,169		22,946
当期損益	167,020	165,007	2,013		▲ 71,007

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

利用促進及び地域との連携

1. 巢子日曜朝市



■10月1日

巢子駅前で開催された今年最後の『巢子日曜朝市』にてグッズ販売を実施しました。6月から開催された当イベントでは、盛岡駅Gの若手社員が中心となり、企画きつぷのPR等も実施しました。

2. 県外でのPR活動



■10月1日 ■12月2日・3日 ■12月9日・10日

仙台・神奈川・大阪での鉄道関連イベントに参加し、オリジナルグッズの販売や、企画きつぷ等のチラシの配布を行い、PRを行いました。県外のお客さまに当社を知ってもらうきっかけになりました。

※写真は万博鉄道まつり（大阪）の様子。

3. 銀河鉄道まつり2023



■10月14日

“鉄道の日”にあわせ、『銀河鉄道まつり2023』を開催しました。今回は4年ぶりに好摩駅を会場にし、約1,300人のお客さまにご来場いただきました。鉄道車両の展示をはじめ、クイズ王や鉄道部品オークションなどのステージイベントを初開催し会場は盛り上がりました。

4. 沿線紹介テレビ番組の制作 【いわて銀河鉄道利用促進事業】



■10月14日

当社線に乗って沿線の観光スポットや飲食店を訪れるテレビ番組を制作し、じゃじゃじゃTVで放送されました。同日に開催された銀河鉄道まつり会場からの生中継も行われ、認知度向上につながりました。

5. もりおか駅前開運ホコテン



■10月22日

盛岡の玄関口である盛岡駅前～開運橋の車道を歩行者天国としたイベントに出店し、盛岡駅長とともに当社をPRしました。当日は悪天候にもかかわらず、多くの家族連れのお客さまに、缶バッジ作成や子ども制服を着用した記念撮影をお楽しみいただきました。

6. 好摩駅愛護会・好摩一自治会との合同イルミネーション装飾



■11月16日

好摩駅愛護会・好摩一自治会の皆さまと当社社員と合同で、好摩駅前にイルミネーションを設置しました。また、奥中山高原駅でも、例年通りイルミネーションを設置しました。その他、盛岡駅、青山駅、巢子駅、いわて沼宮内駅、二戸駅で、クリスマス装飾を実施しました。

7. 青山クリスマスマーケットin覆馬場プラザ



■12月2日

岩手県立大学三好ゼミの学生が主体となり、盛岡広域振興局と当社の3者でイベントを実施しました。飲食や手芸などの青山地区をはじめとする地域のお店が出店したほか、県立大学の学生による吹奏楽演奏など、約1,000人の方にご来場いただきました。

8. 安全啓発4コマ漫画のコラボ制作（モリジョビ×IGR）



■12月11日

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の学生と当社がコラボし、安全啓発のための4コマ漫画を、制作しました。その4コマ漫画を掲載したチラシの完成にあわせ、報道発表を行いました。今後、動画等にも加工し、様々なシーンで活用する予定です。